

No.38
2019
9/29



はちおうじ

JR東労組
八王子地本
八王子地本
ホームページ
「東労組八王子」で検索



申3号

2016年7月8日申し入れ

「中央快速線への12両化・グリーン車サービスの導入」施策に関する説明申し入れ団体交渉

何故延期したのか？

設計をしていたが、オリンピック・パラリンピック・御茶ノ水でのバリアフリーやっている等、他との調整があり本社の中で議論して再検討となった。

プレスすることによって現場に問い合わせがあるが、社員が説明ができず現場は苦しんでいる。

適切な深度化が必要。様々なプレスのやり方がある。施策が大きいからこそ大枠を広めることもある。徐々に情報を出していくこともある。このやり方は他企業・国もやっている。八王子支社としてグリーン車導入への設計を始めたのはプレス発表以降。

2020年までに導入可能の根拠は？

5年で出来ると判断している。5方面のグリーン車導入への動きは昔から水面下で動いていた。支社としては把握していない。

ホーム延伸等について

- ・ 拝島電留線は6線増備する。 ・ 青梅電留は8両編成が入るように延伸工事する。
- ・ 河辺駅下り1番線にホームを造り2面3線化する。
- ・ 青梅駅はグリーン車導入とは別にホーム増設工事を行ってきたが、12両化工事に合わせて行う事と判断した。

工事計画が現場社員へ周知されていない。突如工事が進行し職場は混乱している。

- ・ 2018年4月20日に関係現場を呼んで説明はしている。
- ・ 形はホームだが、正式な運用ではない。視認性に問題あれば周知する。設備が整い使用開始が決まれば周知する。
- ・ 設備職場では月1回のワーキング会議で周知している。また2018年4月20日の内容も周知している。
- ・ 社員への周知の仕方は指導していない。現場からの質問があれば支社経由で答える。

12両化に伴う設備環境プロジェクトについての現状について

- ・ 2018年12月にプロジェクト再開。プロジェクト担当者は他区からの移動、区所内での担当もある。
- ・ 標準数の変更はない。現在員措置で行っている。
- ・ 12両化に伴う業務が原因で超勤が張っている認識はない。工事の平準化、みえる化、システム導入等、超勤削減に取り組んでいる。微量だが超勤は減っている。

ホームドア設置計画とTASC導入計画について

- ・ 東京支社にホームドア推進室があり計画中だが、現状、細かいことは言えない
- ・ 12両化工事が終わらないとホームドア、TASC導入にはならない。ホームドア設置とTASC導入はセットだが、ホームドア無くともTASC導入は行う。

トイレのメンテナンスについて

- ・ E233系以外の便抜き（211系、E353系）は検討中である。グループ会社と調整する。
- ・ トイレ故障の把握と初動で直せるものはJETSで行うが、修繕は本体が行う。

車両・設備工事計画について

- ・車両改造について、トイレとTASCの車上設備工事は別々に行うが、一部重なるところもあるが正式な計画ではない
- ・豊田車両センターと武蔵小金井派出所に便抜き用の給排水装置を設置する。
- ・現在設置中の4号車トイレについては便抜き用の給排水装置を設置後に使用を開始する
- ・グリーン車組込、普通車トイレを進めているが、具体的なスケジュールは本社と協議して進めている。
- ・2023年度末（2024年ダイヤ改正）までに終わらせる予定
- ・2階建て製造開始は調整中。
- ・車両の留置は製造との関係があるため、具体的にになったら示すことができると思うが、総合車両センター、各車両センターが想定される。
- ・209系の使用は調整中。12両化完了次第。
- ・車両設計図は検討中。

検修庫の工事日程について

- ・10月に施行が始まるということで進めている。延伸の工事は11月を見込んでいる。豊田車両センター27番～29番の12両対応化によって、1本使用停止する予定。武蔵小金井派出所17番を使用予定。
- ・武蔵小金井派出所での機能保全是、最大10本弱、平均で7～8本、期間は2021年度の上半期を予定している。変更はその都度ある。
- ・武蔵小金井派出所の気噴室については、不備があると聞いている。既存のものは使わない。用具についても整備していく。
- ・武蔵小金井派出所のパン点検台が途中で止まっているが、他の要素が絡んでいる。電化柱移設等がある。完成形ではない。
- ・上回り点検は、グループ会社を調整中である。
- ・延伸工事によって断路器を移設するが、元に戻すかは後日回答する。
- ・検修庫の排水について要望は聞いている。調整に時間がかかっている。豊田車両センター28番線の排水は、12両化による延伸した後、整備する予定。

グリーンアテンダントについて

- ・他線区と同様にする。立川にグリーンアテンダントセンターを設置。
- ・乗車区間は検討中。

折り返しの車両整備について

- ・中央快速線は、乗降するドアを現行片開きから両開きにする。乗降時分も検討していく。
- ・過密線区という認識はある。グリーン車の形状は独自のものを導入する。
- ・全ての折り返し駅で、グループ会社を配置していく考え。
- ・異常時について中央快速線は検討中。他線区の方法で準用する方向になる見込み。決定はしていない。
- ・折り返しの清掃時分はグループ会社と調整している。具体的に決まれば示せると思う。

9月24日に団体交渉を行い、交渉は終了しました。2016年当時工務職場を中心にプロジェクト等が、何も説明も無しに発足しているため、支社と議論しましたが、「説明する必要はない」を繰り返したため、解明申し入れとして申し入れました。しかし、交渉の中で職場の声をぶつけてきましたが検討中・調整中という回答を繰り返すばかりで、2023年末から実施となっているにも関わらず、多くのことが決まっていないことが明らかになりました。会社の施策立案能力の劣化を言わざるを得ません。職場で組合員との議論を通じて問題点を抽出して、安全で働きやすい職場を創り出さなくてはなりません。

会社施策に相対し、自分達の手で働きやすい職場を創り出そう！！